

本 時 の 指 導

ねらい	☐ 水素の発生のさせ方、捕集のしかた、性質の調べ方の基礎的技法を習得する。 ☐ 実験結果を表に記録し、水素の個性を理解する。					
学習過程	時間	学 習 活 動	形態	教師の支援と指導		指導上の工夫（○） 評価（●）
				T 1	T 2	
1. 前時の 学習活動 確認 2. 課題の 把握	5	◇ 二酸化炭素の個性確認	一斉	T 1 > T 2		●本時の課題を理解しているか。 ○表に記入する。 ○班内の進捗状況を把握する。 ●個別実験を意欲的にできたか。 （関心・意欲） ●ネガティブな結果も記入しているか。
	30	◇ 本時の課題を把握する。 水素の個性を見つけよう！ ◇ 水素の発生方法確認（実験方法） ・色 ・におい ・火のついた線香 ・マッチの火 ・水への溶解性 ・リトマス紙 ・石灰水 ・空気に対する重さ ・結晶を作る 水素の個性について話し合う。	個人	課題の説明 T 1 > T 2 T 1 = T 2 初めは空気のため捨てさせる。 主に4班、7～9班を支援 Aさんを支援	主に1～3班、5、6班を支援 B君、C君を支援	
4. 考 察	10	◇ 水素の個性について話し合う。	個人	T 1 > T 2	T 2	●自分の言葉で表現を工夫して説明できるか。 （技能・表現）
		・空気より軽い。 ・火をつけるとぽんと音を出して燃える。 ◇ 個人で考える。 ◇ 班で話し合う。（司会、発表） ◇ 表にまとめる。	小集団	主に全体に対して支援	小集団を支援 結晶を作る実験について吟味する。	
5. まとめ	5	◇ 水素に火をつけるとどうなるか、演示実験する。	一斉	T 1 > T 2	T 2	○水素と酸素の混合気体の危険性と、そのエネルギー利用面などについて説明する。 ●授業後、T Tによる生徒、授業の評価をする。
		◇ 次時の活動について知らせ、活動の意欲を高める。 ◇ 自己評価をまとめる。	個人	演示実験をする。	次時の活動を説明する。 自己評価表を配布する。	
研究の視点	☐ 個別実験の方法は適切であったか。 ☐ 生徒の活動に対するT Tの援助は適切であったか。					